

# アステラスの中長期的な成長に向けて

**Speed with Vision**

**- 統合後1年で医薬品事業への集中完了・成長基盤の構築 -**

2006年5月16日

アステラス製薬株式会社  
代表取締役社長 竹中 登一



# 統合後1年で医薬品事業への集中完了・成長基盤の構築

- 医療用医薬品事業への集中： 連結売上のおおぼ100%に  
在宅事業・ゼファーマ(OTC事業)・FMS(レセプト事業)の譲渡など
- 医療用医薬品事業の強化
  - 新製品の上市：ベシケア、マイカミン、バプリゾール
  - 新薬開発の進展：FK506 MR、YM060、YM150など
  - 導入活動の活発化：新規導入8件
  - 生産のコスト競争力のアップ：  
国内原薬工場分社化・早期退職の実施による原価低減など
- 合併シナジーの創出
- ガバナンス体制の強化

## 決算概況

(億円)

	2004年度	2005年度	増減
売上高	8,620	8,793	+173 (2.0%)
営業利益	1,922	1,930	+7 (0.4%)
経常利益	1,942	2,025	+83 (4.3%)
当期純利益	595	1,036	+441 (74.1%)



# ベシケア : 2006年4月20日に日本で承認



近日発売



過活動膀胱治療剤(コハク酸ソリフェナシン錠) 薬価基準未収載

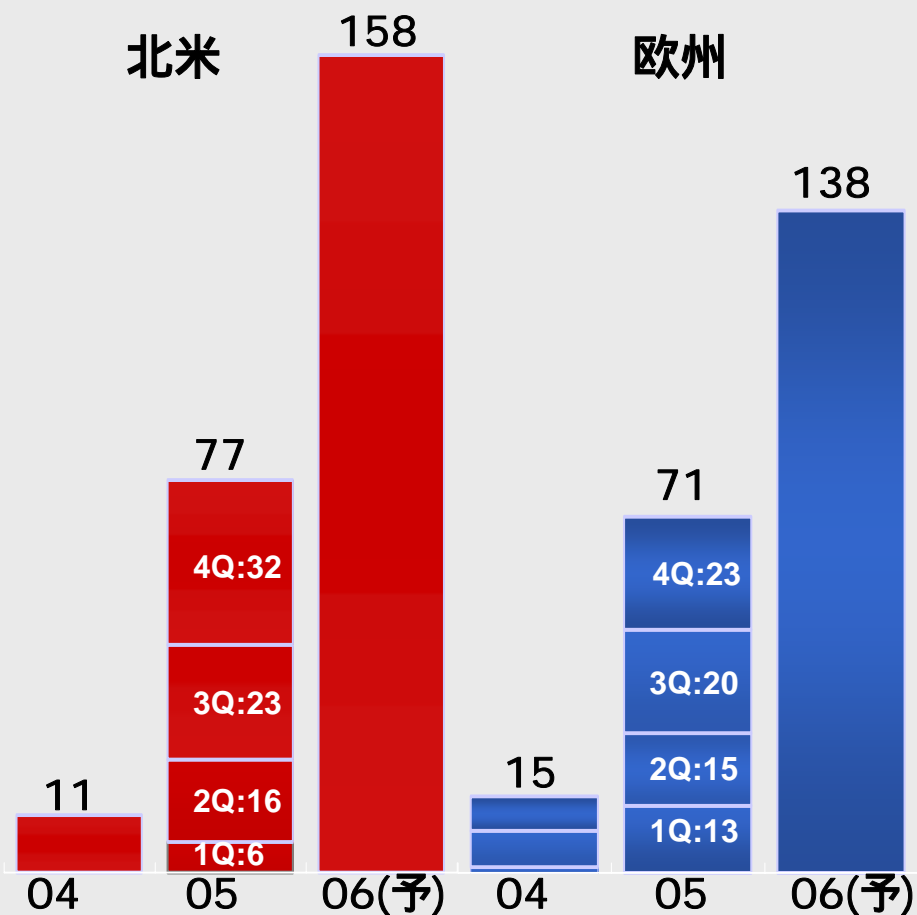
**ベシケア<sup>®</sup>錠** 2.5mg  
5mg

指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意-医師等の処方せんにより使用すること)

**Vesicare<sup>®</sup>**

# ベシケア

2005年度の欧米売上:148億円



## 1.エビデンスの蓄積

■STAR試験・SUNRISE試験

## 2.医療現場からの評価

■STAR試験の結果による認知度向上

## 3.米国処方箋動向

■4月第4週:NRx 9.1%、TRx7.7%

## 4.欧州の状況

■17ヶ国で発売

■欧州販社テリトリー内での市場シェア約15%(2位)

## 米国で病院系の新製品を2剤投入

### マイカミン(2005年5月発売)

- ・Formulary掲載先へのpromotionを強化していくことで、注射用抗真菌剤市場への早期浸透を進める
- ・Roche(感染症領域に経験豊富)とのco-promotionは順調に推移

### パプリゾール(2006年4月発売)

- ・世界初の低ナトリウム血症治療剤
- ・体液正常型(承認)、  
体液貯留型(承認可能通知受領)
- ・高いアンメットメディカルニーズの存在
- ・製品ポテンシャル:1億ドル以上を期待



RSD1235(2006年3月申請)、CVT-3146(フェーズIII)、Telavancin(フェーズIII)等、製品ラインの拡充により、米国病院市場のビジネス基盤を一層強化

## 導入活動の成果 - 病院・専門医向け既存営業基盤の効率的活用と拡大 -

導入品	適応症	地域	営業基盤	既存製品・パイプライン
テラバンシン	cSSSI・HAP	欧米		マイカミン
T-3811	呼吸器感染症等	日本	(病院・PCP)	セフゾン
XP13512	てんかん 神経因性疼痛	日本		中枢系薬剤・スターシス
デガレリクス	前立腺癌	日本		ハルナール・ベシケア・YM155
オステオホ'ンチン	関節リウマチ	世界	(日本)	日本: プログラフRA・YM177・YM529 世界: YM150(VTE: 整形外科)
アメビブ	乾癬	世界		プロトピック
FG-2216 FG-4592	貧血 (経口EPO誘導薬)	日本 欧州		ハルナール、プログラフ、 マイカミン等とのシナジー
ILY101	高リン血症	日本		FG-2216(YM311)など

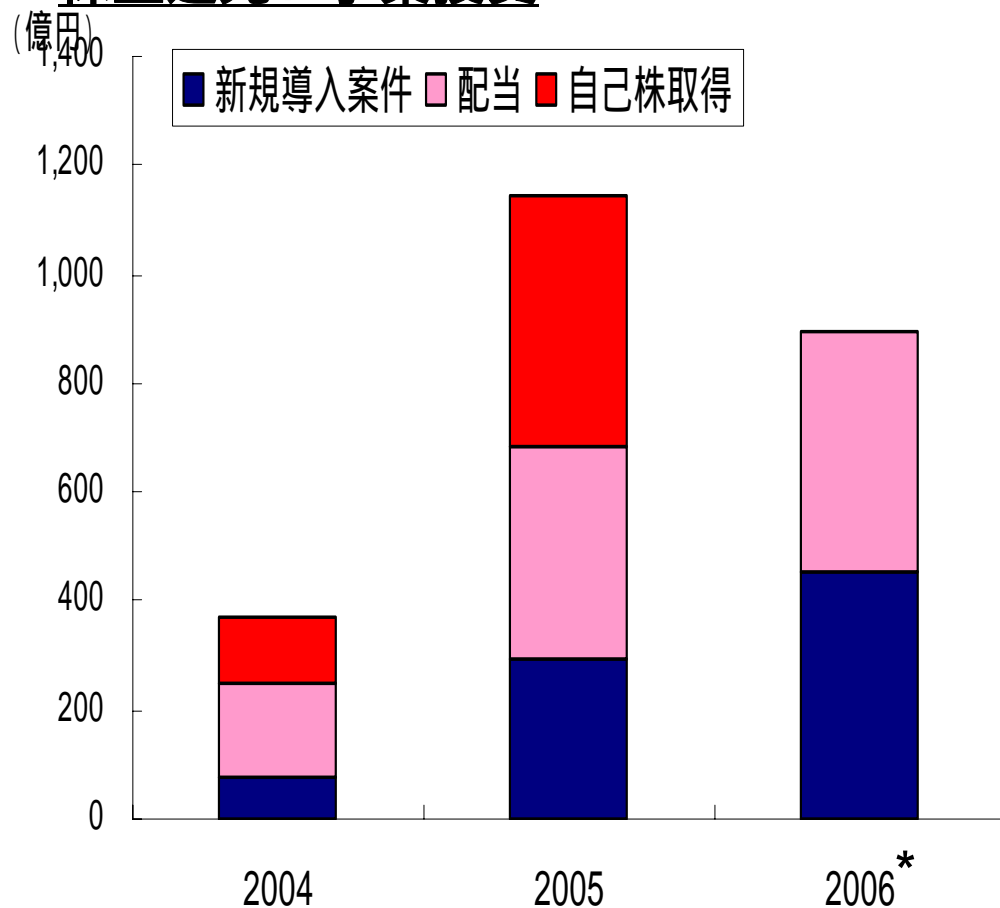
# FG2216/YM311の導入

## ～ 長期での成長を支えるブロックバスター候補～

- 製品力：
  - 良好な臨床試験結果
  - 低分子化合物
  - 優れた利便性
  - 経口EPO誘導薬として上市一番手
- 事業寄与：
  - 泌尿器・移植領域とのシナジー効果
  - 高いUnmetニーズ、EPO市場の成長力
  - 日本及び欧州事業基盤の活用と一層の強化
  - 長期に亘り日欧事業の重要な収益源に
  - 2011年以降のアステラスの安定的成長に寄与

# 資本政策

## 株主還元 / 事業投資



1. 中長期の成長を可能にする事業投資を第一優先
2. 株主還元を積極的に実施  
2005年度還元総額 約850億円  
配当 : 約390億円  
自己株取得 : 約460億円
3. 2006年度配当80円(予定)  
(2005年度70円から10円増配)  
機動的に自己株取得を実施
4. 自己株式の消却: 2006年5月 1,000万株  
今後取得した自己株式についても適宜消却

\*2006年度の自己株取得額は未定

# ガバナンス体制の強化

より広い見地からの意思決定の  
実施、業務執行の監督のため、  
積極的に社外取締役を採用

株  
主  
総  
会

## 取締役会

社内取締役 4名(現在 6名)

社外取締役 5名(現在 3名)

共同会長 青木初夫

共同会長 竹中登一(取締役会議長)

## 監査役会

社内監査役 2名(現在2名)

社外監査役 2名(現在2名)

執行役員制による、  
業務執行責任の明確化

社長  
最高経営責任者

野木森 雅郁



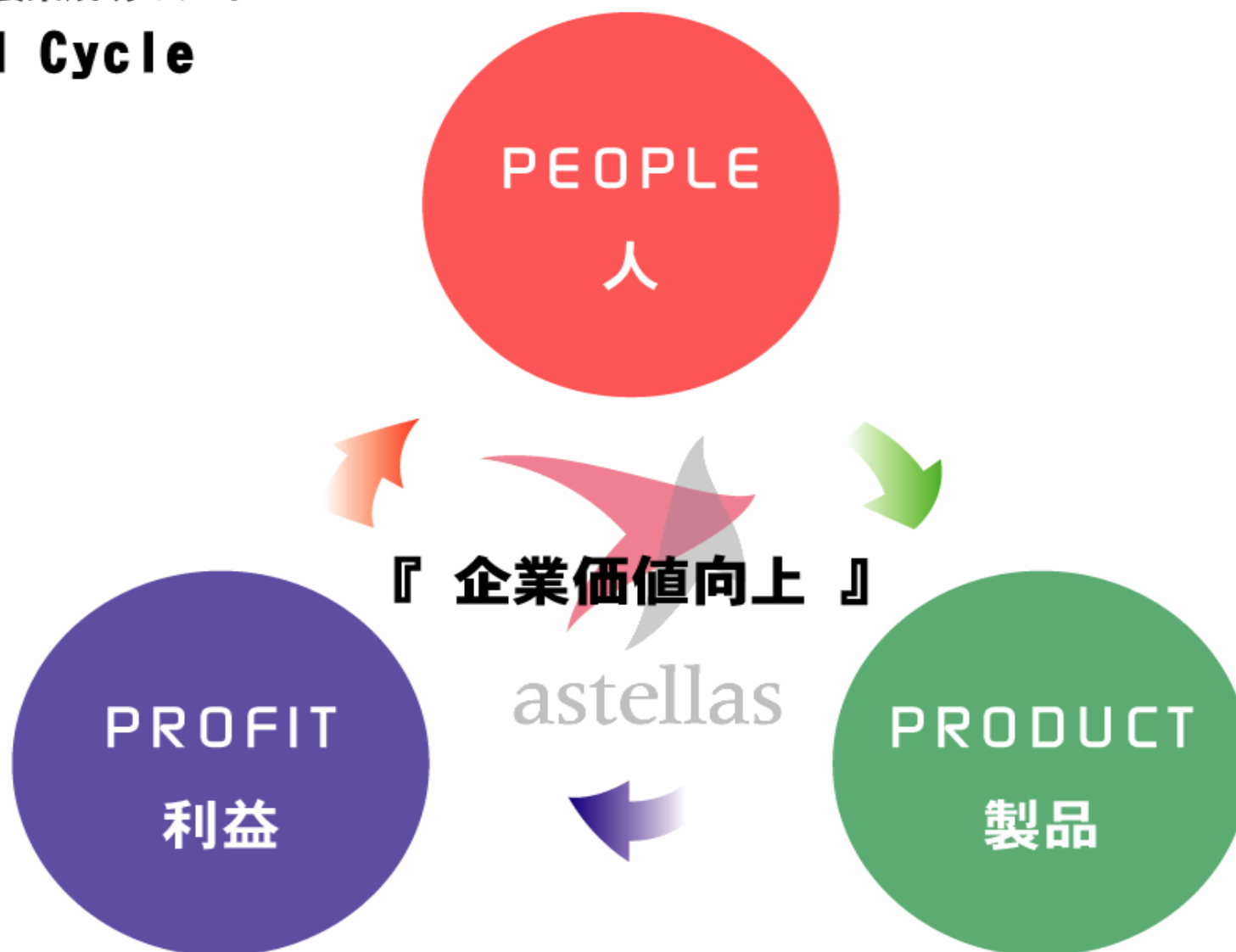
副社長  
CSO・IR統括

田村隼也

11  
本  
部  
体  
制

# アステラスの「3P」サイクル

- アステラス製薬成功のカギ  
…**Good Cycle**



# 企業価値の向上をめざして ~ IR活動の強化 ~

タイムリーかつ的確な情報開示

株式市場とのコミュニケーションの強化

## < 2006年度年間予定 >

2006年6月27日(火)

株主総会

2006年7月3日(月)

研究開発説明会

2006年8月1日(火)

第1四半期決算発表

2006年10月4日(水)

新中期計画発表

2006年11月7日(火)

中間決算発表

2006年11月8日(水)

中間決算説明会

2007年2月1日(木)

第3四半期決算発表

## 注意事項

- 資料中の業績見通し数値及び開発見通し等は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定及び考えに基づきなされたものであります。実際の成果は、さまざまな要素によりこれら業績見通し、開発見通し等とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。
- 実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社既存及び新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、これらに限定されるものではありません。
- 医薬品(開発中の物を含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。